

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 20 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。この者たちに対して、第二の死（墮地獄）は何の力もない。彼らは神とキリストの祭司となって、千年の間キリストと共に統治する。(黙示録 20:6 新共同訳)

しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、(黙示録 20:7)

地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海辺の砂のようである。(黙示録 20:8)

1000 年の終わりにサタンが解き放たれます。底なしの穴が完全に開かれ、人々を、国々、ゴグとマゴグを惑わすために、サタンがそこから飛び出します。

これまで学んできた人たちなら、ゴグとマゴグはロシアのことだと知っているでしょう。

では、ここでもそうかと言うと、私は違うと思います。

エゼキエル書 38 章 39 章。ロシアはイスラエルの丘で、主によって奇跡的に滅ぼされます。「なら、一体どういうことなの？」

それは、こう。サタンが解き放たれて、再び別のゴグとマゴグのようなことが起こる。

サタンが解き放たれると、激変して反逆が起こり、とてつもなく決定的な戦いになるのです。それは、このサタンが何をするかというと、国々を、人々を惑わすから。

誰を？ あなたを？ 違います！ 私を？ いいえ。

私たちはキリストのように確固とした者とされています。

では誰？ それは、千年王国の間に生まれた人々、子供たち、孫、曾孫、孫の孫で玄孫、孫の孫の子供の来孫、そのまた子供と、そのまた孫と…こういった全ての人たち。

彼らは強制された義の平和の中で生きていました。なぜなら他に選択肢がないからです。

完璧さ？ まさにそうです。健康と繁栄？ 確かに。

しかし彼らになかったものは、主に従うか背くかを選択する機会。

私たちにはその機会があって決断をしました。

私たちは主を選び、“我々は主を選ぶ！”

私たちは“選ばれた者”になることを選びます。

今日の私たちにはその機会があります。

これを聞く者は、「来てください」と言いなさい。渇く者は来なさい。

いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。(黙示録 22:17)

そして皆さんは、それを選択しました。

ここにいる殆どが、全員がそうだと信じます。が、恐らくそうではないでしょう。

主を選ぶことを決断して下さい。

簡単なことではありません。それでもこの世的なことに背を向けて、「私は主を追い求めます。主のために生きます。つまりいたり失敗したりは勿論あります。だけど私は主を固く信じ、深く愛します。」

この人たちはどうでしょうか。彼らは自分で選んでいません。

そこへサタンが解放たれます。

ビックリなことに、なんと悪魔は膨大な数の人々を説き伏せ、善以外に何もない主イエスに反逆させるのです。

これが私には理解できませんでした。

彼らは申し分のない環境の中に生きていて、繁栄も平和も完璧。

それなのに主に背を向け、サタンの嘘を信じて、最後の反逆者の一員になる。

「どうしてそんなことが起こり得るだろう？」と不思議に思ったものです。

「主よ。あなたは本当に良くして下さいなのに、どうしてあなたに背を向けたりできるのでしょうか？」

だけど、「今日、祈る時間を取らず、あなたが与えて下さった、みことばを学ぶ機会を無駄にしました。どうしてこんな愚かなことをしてしまうんだろう？」

そうして、サタンの誘いはものすごく説得力があり、背信的で引っかかり易いものだというのを、少しずつ理解し始めるのです。

サタンが耳元で囁いて、膨大な数の人々が「俺たちは、このイエスという男に自分たちを支配させない。」とエルサレムで、千年王国で叫ぶのです。

そこであなたはこう言うでしょう。

「一体全体、どうして主はそんなことが起こるのを許されるのか？」

それは、“神は愛” だから。

“神は愛” そして“愛は選択を要求する”

妻のタミーが後ろに座っているのが見えますが、彼女に結婚を申し込んで「タミー、結婚しよう」と言

った時、地球上に他に男がいなくて選択肢がなく、可能性がないとして、彼女が「はい」と言ったなら、私はきっと思ったでしょう。

「もし他の男が現れても、他に選択肢があったとしても、それでも彼女は僕を愛するだろうか？ それとも、他に選択肢がないし、機会もないから僕と結婚するのだろうか？」

勿論神は既にご存知ですよ。神は心配したりしないし、全てのことをご存知です。

でも、タミーは思うでしょう。「私はジョンと結婚したけど、でも…もし地球上に他の男がいたとしたら、どうなっていたかしら？」

“愛は選択を要求する”

もしタミーに選択肢があって、その上で私を選んだとしたら、それはステキで素晴らしい！「彼女は僕を選んだ。他の男を選ぶこともできたのに、彼らを選ばず僕を選んだ。」

それで、愛が花開くのです。

選択肢がなかったら愛は疑問です。

もし私がタミーの頭に銃を突き付けて「僕と結婚するんだ！」と言ひ、彼女が「はい」と言ったなら、それは私が銃を突きつけたから…。

皆さん、結婚式の翌朝から、自分が飲むコーヒーや紅茶をものすごく警戒しなければなりません。毒殺されるかもしれない。

それは、私がタミーに強要し、彼女には他に選択肢が、可能性がなかったからです。

勿論タミーはそんなことしませんよ。可能性の話です。

このように“愛は選択を要求”します。

それで、サタンには、人々に「神なんか要らない！」と言うか「主よ。あなたが必要です。あなたは本当に良くして下さい。あなたに忠実であること以外、他に何も欲しくはありません。」と言うかを選択する機会を与える、という仕事がまだあるのです。

サタンは王国の国民を惑わすために、1000年の終わりに少しの期間だけ解放されます。

その時何が起こるのでしょう。

彼ら（サタンに導かれた反逆者たち）は、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都（イエスが支配しているエルサレム）とを取り囲んだ。

すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。（黙示録 20:9）

そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。（黙示録 20:10）

皆さん、“火の池”（ゲヘナ）は、サタン、偽預言者、悪霊の最終到達地で、同じように不信者もそこに行くのです。

ところで、“火の池”（ゲヘナ）について語る時、間違っはけませんよ。

漫画は間違っています。ハリウッドはとんでもない間違いを犯しています。

地獄の火の池（ゲヘナ）の中で、人が汗をかきつつランプでポーカーをしているとか、時々サタンが持っているフォークで突き刺されるとか、他の人と会話をするとか、その他全てのことが間違いです。

そこは【火の池】と言われますが、同時に【外の暗闇】とも呼ばれ（マタイ 8:12）、言わば、灼熱でありながら光がない状態。

火の池に放り込まれたら、そこでは誰の顔も見えません。絶対に誰一人見ることはない。

【外の暗闇】。完全に真っ暗闇の火の池で、激しい苦痛を味わうのです。

その苦痛を超えて、唯一あなたの心を占拠するのは嘆き悲しみ。

なぜ歯ぎしりをするのですか？

それは、自分に与えられていた機会を思い出すからです。

水曜日の夜、この教会の礼拝堂で、地獄について、天国について聞いたのに、それでもあなたは「いやあ、どうなんだろう。」と言って、主に背く方を選んだ。

あなたはこのメッセージをこの先何百万年、何億万年、何兆億年と思い出します。

「あの時、あの椅子に座っていた人が、『祈りの部屋に行って、イエス・キリストを受け入れるように祈りなさい』と言ってくれたのに、なぜ拒否したんだろう。どうしてあの救いを受け取らなかったんだろう。」

あなたは「俺は、そんなの信じない。」と言うでしょう。

「人間を地獄へ送る“愛の神”なんか信じない。」

「硫黄の池？ 火の池？ そんなもの、信じるもんか！」

いいですか？ イエスは、はっきりと具体的に言いました。

「地獄は人間のために創られたのではなく、人を滅ぼし焼き尽くそうとする悪魔と悪霊のために創られたのだ」(マタイ 25:4)

人間のためではない。誰のためでもない。

ペテロはこう書いています。

(神は) **ひとりでも滅びることを望まず** (Ⅱペテロ 3:9)

でも人が、「人生に神なんか要らない!」「俺の神は俺自身だ! 自分の人生は自分で舵を取る!」「自分の腕一本で成功する。」「人生をどう生きるかは私が決める。」

「何が正しいか、よく分かっている。」「神なんか要らない!!!」と言うなら、そういう人はどこへ行けばいいのでしょうか？

なぜなら、聖書には“神は光”(Ⅰヨハネ 1:5) とあるからです。

神は言います。

「分かった。あなたがわたしを要らないと言うなら、わたしの“愛”を無理強いしない。それは強姦だから。」

「あなたがわたしを必要としないなら、あなたは暗闇の中にいることになる。わたしは“光”だから。」

「あなたがわたしを必要としないなら、あなたがいる場所にあるのはただ苦痛だけ。わたしは“健康”だから。」

「あなたがわたしを要らないと言うなら、あなたは孤独になる。わたしは“父”で、わたしには“家族”があるから。」

「わたしは父、わたしは愛、わたしは光、わたしは健康、そしてわたしは“良い”。

だから、あなたがわたしを要らないと言うなら、あなたの居場所は悪い所となる。永遠に。」

このように、“神を要らないという人たち”これがカギです。

神は人間を地獄（ゲヘナ）に送るのか、という事について葛藤している人たちに伝えなければならないのは、「いいえ。送らない。」「しかし、人間が『神なんか要らない』と言い、その本質が光、平和、愛、健康、家族、喜びである神を必要としないのなら、あなたに残された唯一の場所は暗闇だ」ということ。

孤独、痛み、苦しみ。【火の池】と呼ばれる【地獄】です。

でも、神はあなたに言います。

「わたしは、あなた無しで生きるより、むしろ死を選ぶ。」そして、そうされました。

主はその通り、十字架で死なれたのです。

それで、私たちは罪が赦され、イエスの血で洗われて、主と共に生きることができるようになりました。私たちが永遠に主と共に生きられるように、罪が赦されたのです。

主は「あなた無しで生きるなら、わたしはむしろ死を選ぶ。」と言われます。

ところが、私たちは言うのです。「どうでもいい。」自分の愚かさの中で。反逆の心で。

しかし、いつまでも「そんなこと、どうでもいい。」と言い続けていると、最後に地獄へ行き着くことになります。

主は、「(天に) 行く唯一の方法は、死んだわたしの体を通してでしかない。

わたしはあなたを本当に愛している。

でも、わたしは強姦はしない。愛を強要しない。

もしもわたしを要らないと言うなら、あなたが行き着く場所はわたしではない所だ。

唯一の道は、わたしの死んだ体を通ること。

わたしはあなたのために死んだのだから。

わたしはあなたを愛しているから計画がある。それは、あなたを祝福するものだ。

しかし、あなたがそれを望まないなら、わたしを必要としないのなら、ただ一つ残された選択肢は、わたしではないもの—痛み、暗闇、憎しみ、孤独、不幸。

あなたがそれらを取ることを望むか、わたしの死んだ体を取るか、それがあなたの選択だ。」

悪魔は火の池に放り込まれました。

そこには既に、偽預言者と獣（反キリスト）がいます。

それから！あと少しで終わりますが、これがすごいんです。

また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。

地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。(黙示録 20:11)

また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。

そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。

死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。

(黙示録 20:12)

海はその中にいる死者を出し、死もハデスも（ハデスは苦痛の待機室）、その中にいる死者を出した。

そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。(黙示録 20:13)

それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。(黙示録 20:14)

何が起きているのでしょうか。

千年王国が終わって、次に第二の復活が起きているのです。

それは誰？ 不信者たち。

どこへ行くのか？ 大きな白い御座の前。

私たちもそこにいるのか？ いません。

大きな白い御座は、不信者を裁くための座です。

あなたがクリスチャンなら、この裁きは当てはまりません。

王であるキリストが別の御座に来られた時に、あなたは既に裁かれているから。

あなたや私のために、主がいばらの冠をかぶり、木にかかって死んだ時に、私たちの罪はそこで裁かれました。

あなたがそれを信じないなら、その事実を受け入れないなら、そのギフトを受け取らないなら、あなたが見る主は、いばらの冠をかぶって古びたボロボロの十字架にかかっている姿ではなく、国王の王冠をかぶり、大きな白い御座に座っています。

主が大きな白い御座に座った時、数々の書物が開かれます。

いのちの書。あなたの名前は、そこにありますか？

あなたがクリスチャンなら、そこに書かれています。

違うなら、もう一つの書物が開かれます。

「いのちの書にあなたの名前がないということは、わたしの救いのギフトを受け取っていない…。」

そこであなたは言うでしょう。「でも！聞いて下さい！僕はスピリチュアルなことに関して、色々な角度から探求しました。そのために様々なことをしました。だけど、あんな偏狭的な宗教には縛られませんでした。」「つまり、あなたの名前はここにはないですね。」

「いや、ちょっと待って下さい。僕はスピリチュアルな人間で、結構良い人生でしたよ。」「分かりました。」

そして書が開かれます。何の書？ 働きが記録されている書。

何の働き？ あなたの行いの全て。それと、それを行った理由。

「ぼ、ぼ、僕はロータリー（社会奉仕連合）の優秀な会員でした！」

「ああ、書のここに書いてあります。それであなたは、保険会社のために名簿を作っていましたね。」

「そうです。でも僕は献血もしました！」

「確かに。そして 25 ドル受け取りましたね。」

主は、自分が犯してきた罪を心理的に忘れるように人を創りました。

と言っても、人に救いの必要を認識させるのに十分な罪の記憶は残してあります。

全ての動機、狡猾な陰口やトゲのある発言の一つ一つ、怒りの一つ一つ、あらゆる嫉妬、全ての対抗心やそういった感情、真理の曲解の一つ一つ、あなたが行った全ての罪。

皆さん、言うておきますよ。

あなたが生まれた日、家に帰って来て、あなたは何をしましたか？

かわいそうに、18 時間かけてあなたを出産したお母さんに、あなたはわめきましたね。

「腹減った！腹減った！オギャー！オギャー!!!」泣きわめきましたよね？

お母さんは睡眠が必要なのに、寝たいのに、あなたは泣きわめきました。

それが 1 ページ目。あなたが生まれてすぐのこと。

それから、それから、お母さんに向かって泣きわめいて、自分の欲求を押し付けました。

次に、かわいそうなお父さんは、翌日あなたのオムツを替えていて、あなた、お父さんにくっつけましたよね？

あれはどうなの？ 若い良いパパになろうと頑張っていただけなのに。

そんなこんなで、来る日も来る日も毎日また新たな罪で、それも一つではなく幾千も！

小学 2 年生になる頃には 88 冊目にまで達していて。

2 年生のあの時の罪、覚えていますか？

算数のテストで、11 番の問題が分からなくて困った。隣の席のスージーは、毎年算数の夏期講習に参加している算数博士。あなたは何となくチラッと覗き見た。

でも、本気で見るつもりはなかったんです。カンニング。

全ての罪が、面白い罪から（仮に、“面白い罪”なんてものがあるとしたらですが）深刻な罪まで、あなたの心の奥深くに残っているのです。

ある人に対する感情も。

全ての動機、全ての本当の理由、自分でも分かっていなかったようなこと。

人の心は何よりも陰険で、それは直らない。(エレミヤ書 17:9)

私たちは自分の陰険さや病に気付きもしません。

だから詩人はこう言ったのです。

神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。(詩篇 139:23)

そこには、全ての罪、その一つ一つが記録されています。

もしあなたが不信者なら、神はただこう言います。

「あなたの名前は、いのちの書に書かれていない。」

大きな白い御座の前の裁きの時、あなたの名前がその書にない。

「でも、私は頑張りましたよ。」「そうか、じゃあ見てみよう。」

そうして、全ての罪が書かれている 167 冊目が開かれる頃には、あなたは言うのです。

「僕から離れて下さい。」「私から離れて下さい。」

「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」(ルカ 5:8)

そして、自分から火の池ゲヘナに飛び込んで行く。

私が、「神は誰も地獄に送らない」と言うのはこのためです。

「フェアじゃない!!!」と叫び、手足をジタバタさせながら放り込まれるのではありません。悲痛な思いで、自ら地獄に飛び込むのです。

だから私は、自分が救われていることが本当に嬉しい。

あなたが救われているなら、信じているなら、クリスチャンなら、聖書にこう書いてあります。

いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。(コロサイ 2:14)

それで、これは福音（グッドニュース）と呼ばれるのです。

また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。

死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。

（黙示録 20:12）

いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。（黙示録 20:15）

19 章で“只今予約受付中”だと言いました。

小羊の婚姻の祝宴ディナーか、残虐なハルマゲドンのディナーか。

けれども、ディナーの予約だけでなく、部屋の予約も只今受付中。

禁煙室か喫煙室かどちらか一つ。天国に行く人は禁煙室。それか永遠に燃える火の池。

最後に伝えておきたいことがあります。とても大事なことです。

皆さんはきっとこう言いたいでしょう。

「これらのことは分かった。すごく興味深いものだったよ。でもジョン、私は今、問題を抱えている。神の恵みが私にも注がれて、自分が天国に行くことは分かっている。その救いを信じたから。でも、今、問題を抱えているんだ。先の話ではなくて、今、どうすればいいのか。」

聞いて下さい。

黙示録を読む時、常に念頭に置いておくべきことは、この書を書いた牧師ヨハネの集会在深刻な問題に直面していたということ。

カエサルによって迫害が起こり、何百万人というクリスチャンが十字架にかけられ、彼らは、ローマ兵が家族の体を裂くのを目の前で見ていたのです。ヨハネは、書を宛てた人々が迫害され、切り裂かれ、激しい患難の中にいることを知っていました。

その中で、これらの言葉が彼らの励みになったのです。

どの言葉？ 勿論、将来何が起こるかということだけではありません。見えませんか？

牧師ヨハネが自分の集会のメンバーに、そして皆さんに伝えようとしていること。

見えませんか？

“平安になり得る”

悪魔は縛られました。誰に？ 一人の御使いに。

悪魔は縛り上げられる。それも一人の御使いによって。主ではなく、一人の御使い。

そして驚くことに、私たちは御使いよりも上の者となる、とイエスは言いましたね。

患難、苦難に直面している皆さん、問題に取り囲まれていると感じている人、ヨハネが今日、あなたに言っていることに耳を傾けて下さい。

あなたは、敵を縛ることができます。

一人の御使いがサタンを縛れるなら、信者が縛れないことがあるのでしょうか。

それが平安となりませんか？

惑わす者を抑えられないのでしょうか。強い者を縛り上げられないのでしょうか。

イエスが私たちにその権限を与えたのです。

主よ。本当に感謝します。ありがとうございます。永遠に感謝します。

主よ。あなたは来られ、死に、ご自身の尊いパワフルな血で、私たちの罪を洗い流して下さいました。それゆえ、私たちの名が、今、いのちの書に記されています。

主よ。今どれほど悲しくても、また現状の苦しみにどんなに囚われていても、今日、私たちは思い出しました。私たちはいつかあなたと共に永遠を過ごす、最も祝福された者たちです。

またイエスは、王国は“その時”だけでなく、“今現在”も私たちの中にある、と言われました。主よ。どうか私たちが、食べたり飲んだりする王国ではなく、聖書にある通り、聖霊の義と平和と喜びの王国に住むように。

教会の家族の人生が、あなたの霊から来る義と平和と喜びと、言葉に尽くせないほどの栄光に満たされますように。

父よ。このみことばが今の人生に生かされるように。

永遠に目を向け、現在の人生の中でも、敵に勝利していることを理解できますように。

主よ。今日あなたのみことばを聞いて、みことばが光となり、励みとなりました。

そして、あなたが王の王であることを喜びと共に悟りました。

あなたの王国に属し、あなたの権威の下にあることを嬉しく思います。

主よ。あなたを称えます。

これを聞いている人の中でイエスを信じていない人がいるなら、父よ、今夜、自分にもすぐに主が必要であると悟りますように。

彼らが大きな白い御座の前に立ち、自らの罪に恥じ入って、永遠に地獄へ墮ちることのないようにその心に触れて下さい。

イエス様。この学びを、このメッセージを、彼らの救いのために用いて下さい。

イエスの栄光ある御名によってお祈りします。

アーメン

ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。

そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

神に近づきなさい。

そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。

罪人たち、手をきよめなさい。二心の者たち、心を清めなさい。(ヤコブ 4:7-8)